

茅野市長 今井 敦 様

茅野市 DX 推進協議会会長
北原 政彦

茅野市 DX 推進協議会（提案・報告）書（第 1 回）（案）

茅野市から依頼がありました以下の DX 事業について、検討を行った結果を報告します。

本報告書にご配慮いただき、茅野市の DX 事業推進に引き続き取り組んでください。

| | |
|--|----------------------|
| 1. 事業名 | 防災 DX（避難所入所受付の DX 化） |
| 2. 対象サービス等 | 避難所チェックインシステム |
| 3. 参考とした市民意見聴取の方法 | 茅野市 DX 外部評価委員会への意見聴取 |
| 4. 事業のメリット/課題 | |
| <p><u>（メリット）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所受付の効率化による受付時間短縮、混雑緩和 ・災害時の迅速な情報収集と災害対応に寄与 ・必要な情報がオンラインで確認できる ・区（民生委員等）の負担軽減 <p><u>（課題）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報が網羅されていること ・自主避難者や地元（市内/居住地区）に居ないときの活用方法 ・使える人が限定的（子ども、高齢者、デジタルデバイド層等への配慮が必要） ・発災時のシステムを使う環境（デバイス/電力/通信環境）への不安感 ・地域性の差によるシステムの活用や必要性のばらつき ・事前の情報登録の簡略化 ・行政の強制力が必要 | |
| 5. システムに関する改善・提案事項 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・避難者が必要とする情報の発信/可視化（家族の避難状況、備蓄状況など） ・平時におけるシステム活用や情報取得方法の確保 ・様々な市民に対応できる、顔認証（生体認証）/LINE/QR コードなど多様なチェックイン手法の確保 ・避難所以外の避難者に対する避難状況の把握システムなどの機能拡充 ・手書き情報のデジタル化手法の導入 ・システム使用環境の整備（専用デバイス/電源/通信環境） | |

- ・情報の事前周知（システム導入/避難所体制など）**や啓発活動の徹底**
- ・市民以外の滞在者や観光客等も活用できる仕組みの構築
- ・ボランティア登録/受付手続き及びボランティアセンターのマッピング機能の導入

6. その他防災に関する提案事項等

- ・手書きによるチェックイン手法**とシステムの併用**
- ・住民名簿の作成
- ・地域ごとのニーズ把握
- ・府内/学校など、部署間/組織間の連携強化
- ・平時における**アナログでの**市民情報の収集
- ・諒訪 6 市町村の自治体間連携
- ・避難所設備の充実
- ・医師会/病院等の関係団体との防災訓練の実施

7. 総括

避難所チェックインシステムの導入については、概ね賛成と考える。
当該システムの導入により、避難所の状況（空き情報、備蓄情報等）が広く周知されることで、避難者（市民）の自主避難行動を促すとともに、発災時に避難者が迅速に安全な避難を行えることを期待する。

8. 付帯事項

- ・導入時点で予定された機能のみで完結しないよう、拡張性（システム自体の機能アップ）・接続性（API などによるデータ連携）・持続性を確保し、ユーザーにより一層求められるシステムとなるよう設計、運用、改善を行うこと。
特に、チェックイン手法の多様化や洗練化はもちろんのこと、避難所運営に止まらない、他の災害情報の共有と把握に資する接続性を有すること。
- ・アナログ手法（避難者カードなど）によるチェックイン手続きを併用することを前提として設計すること。
- ・防災分野における既存の仕組みや体制などのアナログ面においても、当該システムとの親和性を考え、それぞれの長所と弱点を補い合うような運用の改善と最適化を同時に設計することが望ましい。
- ・法律の規制などで現状対応が難しい事象がある場合でも（個人情報の取得など）、十分に検討を行いつつ、将来の法改正などに備えて十分な検討を行うこと。また、現状で対応できる方法の工夫もできる限り行うべき。

※詳細別紙